

実践のまとめ（第5学年 社会科）

関川村立関川小学校 教諭 山田 大輔

1 研究テーマ

自分で設定した課題を解決する力を育てる社会科学習指導 ～個別最適な単元計画の作成と学習課題設定を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、社会科で目指す資質・能力として「社会の在り方や人間としての生き方を選択・判断する力、現代的な諸課題を歴史的に考察する力、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力の育成を目指す」と記載されている。また、課題を追究したり解決したりする視点として「社会的な見方・考え方を働かせる」とある。さらに、令和3年1月26日の中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が、主体的・対話的で深い学びの実現に重要であると明記されている。

これまでの授業観として、教師側が単元を構想し、授業の中では見方・考え方を働かせる発問を行い、授業者の意図する思考を促す一斉授業を中心に行ってきた。しかし、上記の方向性を踏まえると、授業観の転換期を迎えていると言っても過言ではない。一斉授業から脱却し、児童が自ら問いを立て、社会的な見方・考え方を働かせながら課題の解決に向かう力を育てることが、今後の世界をたくましく生き抜く児童には必要と考え、研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

- ① 個別最適な学びを実現するために、「My学びの地図」を作成する。

「My学びの地図」とは、単元を貫く学習課題を解決するために、児童自身で作成する単元計画のことである。指針として、単元導入時に資料等を提示し単元を貫く学習課題を設定するが、その後の追究意識を大切に、個人の学習計画を立てる。学びの蓄積はロイロノートを用いる。個人がどのような追究の過程を進むのかをクラウド上で把握し、指導に活用する。

- ② 見方・考え方を働かせ学習課題を設定、解決するために、「問いの分類表」を用いる。

「問いの分類表」とは、児童が社会的な見方・考え方を働かせるために、「位置や空間の広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」に着目する問いの一覧である。学習課題を設定する際に、社会的な見方・考え方を働かせることで教科の本質から逸れることなく、学習課題を解決していくことができると考える。宗實（2023）は、「問いの一覧は、教師の手元に置いておくだけでなく、子どもたちがもつ必要があります。子どもが使えてはじめて意味があります。」と述べている。そこで、児童が「問いの分類表」を常に見返すことができる状態を作り、見方・考え方を働かせるようにする。また、問いには「見える問い（事実の獲得）」「見えない問い（願いや思いなどの概念の獲得）」があることを示し、事実から概念の獲得に向かうことができるように指導する。

(3) 研究テーマに関わる評価

研究テーマに迫る手立てが有効か検証するために、下記の2点で検証を行う。

- ・アンケートによる数値での検証
- ・振り返りの記述による検証

アンケートによる数値の検証では、「My学びの地図を作ることによって、自分で見通しを持ちながら学習を進めることができたか」「問いの分類表を使って学習課題をつくり、解決することができたか」の2点とする。振り返りの記述では、学び方に対する児童の思考の変容を見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

未来をつくり出す工業生産～日本の工業生産の今と未来～（小学社会5 教育出版）

(2) 単元の目標

- ・我が国の工業製品の概要や、工業生産が国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切にまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・我が国の工業生産の概要や特色、工業生産が国民生活に果たす役割を多角的に考える力、工業生産に見られる課題を把握してその解決に向けて多角的に考える力。考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・我が国の工業生産の概要や特色について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良などについて、地図帳や地球儀、統計などで調べ、必要な情報をまとめ、工業生産の概要を理解している。	・工業の種類、工業の盛んな地域の分布、工業製品の改良や開発などに着目して、問いを見いだし、工業生産の概要や特色について考え表現している。 ・工業生産が国民生活に果たす役割や学習したことを基に、これからの工業の発展に向けて必要なことを多角的に考え、表現している。	・我が国の工業生産の概要や特色について、問いを立てたり見直したりしながら学習課題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことを基に、これからの工業の発展について消費者や生産者の立場から多角的に考えようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全8時間、本時4／8時間）

(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (3)	・単元を貫く学習課題を立て、My学びの地図をつくる。 ・My学びの地図に沿って、課題を追究する。 児童が立てる問いの例 ◎日本のどこで工業製品が多くつくられているのか。 ◎どのような工場が日本にはあるのか。	・資料から、単元を貫く問いを設定する。 ・自動車の部品がどこで作られているか調べる。 ・日本の工業地帯や工業地域を調べる。 ・それぞれの工業地帯や工業地域の特徴を学ぶ。	主体的に学習に取り組む態度 身近な工業製品の産地や種類から学習課題をつくり、追及の見通しをもつ。 知識・技能 問いについて、資料や統計を用いながら問題解決を行っている。 思考・判断・表現 調べた内容に対し適切な資料を用いて説得力を高め表現している。

2 (4) 本時 4/8	- 調べたことを整理し、新たな課題を設定する。 - My学びの地図をつくり、自分の課題を追究する。 児童が立てる問いの例 ◎なぜ海外生産を増やしているのか。 ◎生産量も工場の数も減って、日本は大丈夫なのか。 ◎生産を続けるために、どのような努力をしているのか。 - 調べたことを整理し、まとめる。	- 個人で追究した内容を発表し、全体で共有する。 - 資料から新たな問いを見いだす。 - 海外に工場を建てる理由について調べ、考察する。 - 日本の中小工場の現状を学ぶ。 - 中小工場で働く人々の願いや思いを学ぶ。	思考・判断・表現 調べたことを整理することで、共通点や相違点を見だし、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを表現している。 主体的に学習に取り組む態度 資料から学習課題を見だし、追究の見通しをもつ。 【発言・振り返りの記述】 知識・技能 自分が立てた問いについて、資料や統計を用いながら問題解決を行っている。 思考・判断・表現 調べたことを整理することで、共通点や相違点を見だし、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを表現している。
3 (1)	- まとめた内容から、今後の工業生産の在り方を考える。 - 単元の学習を振り返る。	単元を貫く問いに対して、自分の考えを表現する。	思考・判断・表現 日本の工業生産の在り方を、様々な側面や立場からとらえ、自分の考えを表現している。【ロイロノート】

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元は、大単元「未来をつくり出す工業生産」の中にある小単元である。大単元の構成としては、次のとおりである。

「1 自動車の生産にはげむ人々」では、日本の産業の中心となっている自動車について、新たな機能の開発や輸送には多くの人がかかわっていること、様々な工夫や努力をして消費者のニーズに応えようとしていることを学習する。「2 日本の工業生産と貿易・運輸」では、日本の工業生産は、様々な輸送手段を利用し、世界と貿易によって結びつくことで成り立っていることを学習する。これらの学習を経て、本単元の学習を行う。

本単元では、日本では重工業の生産額が大きいこと、様々な工業地帯や中小企業の技術の高さ、海外生産の長所や短所を学び、今後の国内生産について自分の考えを表現することで大単元のまとめとする単元である。児童は、小単元ごとにMy学びの地図を作成しているが、これまでの単元で学習したことを活用する場面でもある。そのため、知識の定着をその都度確認し、活用できるようにする。これまで日本の工業生産を支えてきた中小企業にも目を向け、大企業と中小企業の両側面から今後の工業生産について思考する場面を大切にしたい。

(2) 児童（生徒）の実態（男子19名 女子15名 計34名）

本学級の児童は、社会科の学習にとどまらず、意欲的に学習に取り組んでいる。社会科の学習では、ロイロノートを使い自分で立てた学習課題を調べ、自分の言葉でまとめる経験をしている。本単元でも、これまでの経験を生かして学習を進めることができると考えられる。これまでの学習形態に対するアンケート結果は下記の通りである。

質問（4：できる 3：まあできる 2：あまりできない 1：できない） %	4	3	2	1
①自分の言葉で◎(学習課題 以下同様)をつくることはできますか。	24.2	63.7	12.1	0
②◎を解決するための方法を自分で決めることができますか。 (教科書を使う/インターネットで調べる など)	42.4	54.6	0	3
③友達や先生と対話しながら学習課題を解決していますか。	21.2	63.6	15.2	0
④課題を解決するときに、必要な資料などを選ぶことができますか。	39.4	54.6	3	3
⑤自分の言葉でまとめを書くことができますか。	48.5	42.4	9.1	0

学習課題を作り出すことや学習課題の解決、解決の際に資料と結びつけて考えることなどは、これまでの単元の中でも取り組んでいるため、児童の肯定的評価も高い。

一方、課題として、社会的事象に対して多角的に考察する経験が少ないことがあげられる。児童に、「～の立場では」といった思考を生み出すことができなかった。本単元では、これまでの学習経験を生かしながら課題を解決するとともに、上述のような多角的思考を促したい。

5 本時の展開（令和6年10月25日実施）

(1)ねらい

日本の工業生産の現状について、社会的事象の概念と資料の内容を比較することを通して、新たな問いを見だし、追究の見通しをもつ。

(2)展開の構想

本時は、個人で追究してきた学習課題を整理し、新たな問いを見いだす時間である。児童は本時まで、日本の工業生産額や工業の種類、工業地帯等について調べている。これらを調べる過程を通して、児童の中には「日本には多くの工業の盛んな地域がある」「生産額を見ても、日本の工業が発展している」などの概念を獲得していると考えられる。本時の前半では、この概念を共有するために、全体での一斉授業を行う。調べてきたことを、思考ツールを用いて整理し、共通項を見いだすことで、日本では工業生産が盛んであることを全体で共有する。

しかし、国内の工業生産の現状としては、海外生産への移転が進んだり、中小企業の数が年々減少したりしているという課題がある。そこに、獲得した概念とのズレがあると考え、資料を提示する。獲得した概念と資料の内容を比較することで、新たな追究する課題を見だし、個人の学習課題設定のための軸としたい。

(3)展開

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け 予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
20	・ 本時の学習課題を立て、調べたことを共有する。	T 一人一人が調べたことを共有して整理しましょう。 ◎調べたことを共有して整理しよう。 C 日本には、中京工業地帯や京浜工業地帯などの、工業の盛んな地域があります。 C 海の近くにあります。 C 太平洋ベルトといいます。 C 日本のほとんどは、中小企業です。 C 生産額は、303兆円です。 T 調べたことから、日本の工業生産は発展していると言えますか。	◇内容を整理するために、思考ツールにまとめさせる。 ○個人で調べたことを共有するために、児童の発言に合わせて発問をし、内容の確認をする。 思 調べた内容について、資料を示しながら発表している。

20	・新たな追究する課題を見だし、個人の学習計画を立てる。	C 303兆円という金額を見ても、発展していると思う。 T 資料を見て気付くことはありますか。 C だんだんと生産量が減ってきている。 C 同じように、工場の数や工場で働く人の人数も減ってきている。 T この資料を見て気付くことはありますか。 C 海外にある会社の数は増えている。 C 日本国内と反対だ。 T どのような疑問が生まれましたか。 ◎なぜ日本の工場の数を減らしてまで、海外の工場の数を増やすのか。 T 予想を書きましょう。 C 海外の方が安く作れるからかな。 T 自分が調べていくことを書きましょう。 C どうして日本の工場を減らして海外に生産を移すのか。 C 日本にある中小企業は、このままで大丈夫なのか。 C どんなものを海外で作っているのか。	◇内容ごとにラベリングし、特色として認識しやすいようにする。 ☑調べた内容を整理し、日本の工業生産の発展について表現することができる。 ○資料①・②を提示する。 ☑資料を正しく読み取っている。 ○資料③を提示する。 ☑資料を正しく読み取っている。 ☑資料から、新たな課題を見いだしている。 ◇児童の記述を価値づけ、新たな学習課題を設定する。 ◇問いの分類表を使用させ、個人の追究する課題を設定させる。 ☑調べたことや本時で生まれた疑問をもとに、個人の追究する課題を立てている。
5	・学びを振り返る。	T 問いの分類表から問いを作ること、今日の学び方を振り返りましょう。 C 資料から、新しい疑問が生まれました。日本がなぜ海外に生産を移しているのか知りたいです。 C 他の方が発表したことに、自分では調べていないことがあったので、話し合いながら調べるのもいいと思いました。	◇振り返りの視点を示す。

(4) 評価

評価方法 ロイロノートへの記述、My学びの地図の作成

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	学習した内容を整理することを通して、社会的事象のつながりを捉え、国内の工業生産の発展を理解している。	資料と獲得した概念を比較することで追究する学習課題を見だし、学習課題を解決するための個人の計画を立てることができる。
B	学習した内容を整理することを通して、国内の工業生産の発展を理解している。	資料と獲得した概念を比較することで、追究する学習課題を見いだすことができる。
C	Bに満たない。	Bに満たない。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際（テーマに迫る手立てから）

①個別最適な学びを実現するための、「My学びの地図」（図1）を作成。

実践を行った大単元「未来をつくり出す工業生産」は、3つの小単元から構成されている。1つ目の小単元「自動車の生産にはげむ人々」の単元を通す課題を「つくろう未来の車」と設定し、自分の自動車をどう作り、世界に広げていくかという課題を解決していく方向性を確認した。そのため、他2つの単元についても、「自分の自動車」を主語にして単元を通す学習課題を設定し、My学びの地図を作成した。

実際にMy学びの地図を作成する際には、下記の流れで授業を進めた。

1. 学級全体への発問
「自分の自動車工場を、どこに建てるか。なぜその場所に建てるのか。」
2. 日本の自動車メーカーがどこに自動車工場を建てているかを問う。
児童は、実際に多くの自動車を生産している日本の企業の工場がどこにあるのかを知らない。
3. 工場を建てるにあたり、知っていることと知らないことを整理する。
4. 知らないことから、単元のゴール「自分の自動車工場をどこに建てるのか。それはなぜか。を説明する」を達成するために解決する問いを立てる。

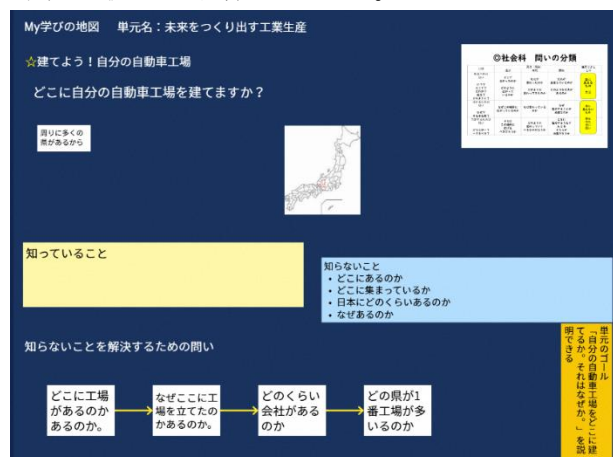


図1 My学びの地図

単元の導入は一斉指導で行い、児童の中に問いをつくり出すようにしたが、児童の既存の知識に差があるため、児童は自分の中の疑問を優先して問いを設定していた。（図2）共通のゴールを設定しているが、個人の思考を尊重する問いの設定方法であったと考える。このことから、My学びの地図を用いて問いを可視化し、単元のゴールまでの道筋をつくるのが、個別最適な学びの実現に有効だったと考えられる。

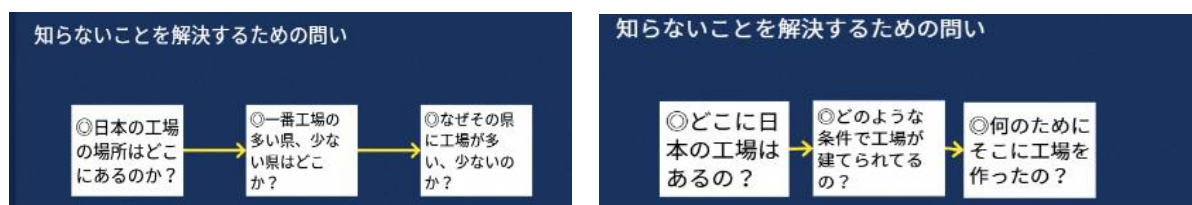


図2 児童によって追究する問いが異なる様子

②見方・考え方を働かせ学習課題を設定・解決するための、「問いの分類表」の使用。

手立て①のMy学びの地図の作成とも関連するが、児童が自らの問いを作成する際に、社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを設定するために、問いの分類表（図3）を使用した。単元を通して抽象的概念を獲得させるために、知るための問いから立て、事実を獲得したうえで概念を獲得する問いを設定するように教科の中で指導を続けた。その結果、図4のように、事実と概念を分けて問いを設定する姿が見られた。

◎社会科 問いの分類

分類	見方（視点）			獲得できるもの
	場所	時間	関係	
知るための問い いつ？どこで？だれが？何を？どのように？分かるための問い なぜ？そもそも何？	どこで広がったのか どのように広がっているのか	なにが変ったのか どのように変ったのか	だれが生産しているのか どのような工夫があるのか	目に見えるもの 事実
判断するための問い どちらが～？～するべき？	なぜこの場所に広がっているのか	なぜ変わっているのか	なぜ協力することが必要なのか	目に見えないもの 意味 特色 思い 願い

図3 問いの分類表

本時では、個別の学習で得た知識を共有した後、資料を提示し、追究する学習課題を全体で練り上げた。その際にも事実と事実を関連させ、概念に向かう問いを設定する姿が見られたことから、個別の問いだけでなく、一斉指導の中でも社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを設定することができていると考える。このことから、問いの分類表を用いることで、社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを設定し、課題の解決に向かうことができたと考える。

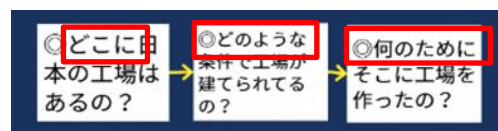
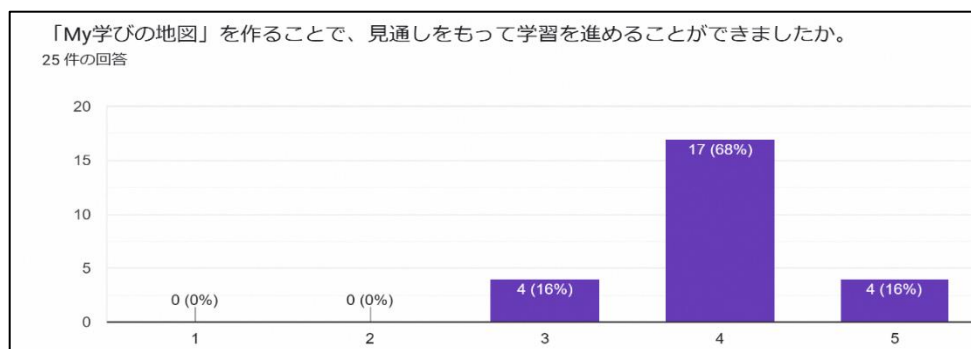


図4 児童の設定した問い

(2) 研究テーマに関わる評価

本実践は、単元終了後のアンケートによる数値の評価、児童の振り返りの記述から評価を行った。

① My学びの地図を作ることによって、自分で見通しをもちながら学習を進めることができたか。



1：まったくそう思わない

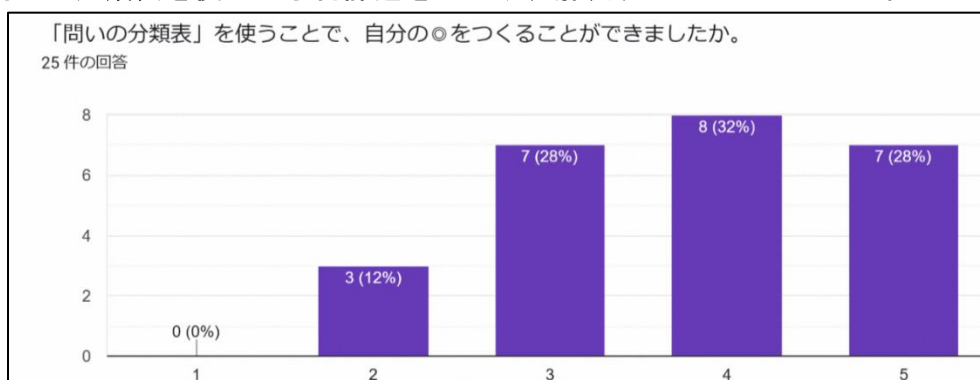
5：とても思う

児童の記述による振り返りの一部（_____は授業者）

- ・次にどんな◎なのか分かりやすく、計画的に学べた。
- ・問いをたてるときや問いを解決する順番がわかった。
- ・単元のゴールがわかって最終的に何をすればいいかわかった
- ・わからないことを見返してどのような◎にすればいいかわかった。
- ・やった学習を振り返ることができて役立った。
- ・知っていること・知らないことを書くことで、自分の知らないことが整理できた。

肯定的評価（4、5を選択）の割合は84.0%となり、肯定的評価が高い結果となった。児童の記述による振り返りを分析すると、「計画性」「順序」「整理」といった記述が見られ、児童にとってMy学びの地図は見通しをもつために有効であったといえる。

② 問いの分類表を使って学習課題をつくり、解決することができたか。



児童の記述による振り返りの一部（_____は授業者）

- ・どんな問いを作ればいいのかの手がかりになった。
- ・分類、場所、時間などについて、どう◎を作るか考えることができた。
- ・最初は何を調べればよいのかが書かれていて、◎をつけることが出来ましたし、前は自分で◎をつけるのは苦手だけど、今は◎をつけるのが少し良くなったと思います。
- ・「どのように？」や「いつ？」などの言葉で◎を立てるのに役立った。

【アンケートの数値が3の児童の記述】

- ・こんな問いをかきたいなというのはあるけど、どう文章にすればいいのかわからないときに役立った。
- ・問いの分類表があることで私にとってとても便利だなと思いました。私がどう書けばいいのかわからない時に、この問いの分類表を見たことで、いっぱいシートの量が増えて良く書くことも出来ました。ロイロノートを使う時はこの問いの分類表を忘れないようにしようと思いました。

肯定的評価をした児童の割合は60.0%となった。アンケートの中で3と評価した児童の記述の中にも、問いを設定する際の手がかりとなったり、場所や時間、理由などの社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを設定したりする姿が記述から見られた。しかし、学習課題を作る際に有効であったと回答した児童が半数以上いる一方、課題を作ることに對しての難しさを感じている児童も一定数いた。否定的評価をした児童の振り返りには、「問いが繋がっていくことが難しい」といった記述があり、単元を貫く学習課題に對してどのような問いを立てると解決に向かうのかを思考することに困難さが見られたと考える。今年度の社会科の学習では、年間を通して児童が個別に課題を設定し、解決する授業を行っている。しかし、これまでの経験の中で課題解決までのプロセスを意識して学習に取り組むことができなかった児童もいると推測される。社会科の学習だけでなく、他教科の学びでも課題解決までのプロセスを意識するような単元構想を行う必要があったと考える。

(3) 今後の課題

① 協働的な学びを促進するための、教師のあり方

本実践では、単元を貫く学習課題を解決するために、個別に課題を設定し追究する場面と、一斉指導で追究する場面を取り入れた。個別の課題を解決する場面では、教師は個々の学びの進捗状況をその都度見取り、個人の思考を促す働きかけを行った。一斉指導の場面では個が学習してきた内容を全体で整理、統合することで単元のねらいに迫るよう指導を行った。しかし、個の学びや解釈を生かしながら整理、統合する際に、異なる児童の思考をどのようにつなげるか、その際の教師の問い返しの質が重要であると痛感した。

「個別最適な学びと協働的な学び」は「一体的な充実」を目指しているため、個の思考を尊重しながらも、児童同士がつながり、ねらいに迫ることができるような教師のあり方を模索したい。

② 児童の主体的な学びを支える教師自身の資料の解釈

主に一斉指導の場面で、児童が追究したことを社会的事象として価値付けたあとに、資料を提示し、社会的事象とのズレを生み出すような指導を行っている。「～なのに・・・なのはなぜか。」という問いを生み、新たな追究の意欲を高めることをねらっているからである。

本時では、資料を提示することで児童から新たな追究の課題をつくり出すことができたが、想定した展開とは異なってしまった。それは、教師自身の資料の読み取りや、どの資料をどの場面でどのように提示するかなど、児童の思考と資料がどのようにつながるかを深く解釈できなかったためであると考えられる。例えば、「日本の工場の数が減っている」という事実を、「企業が日本の工場の数を減らしている」という可能性があると考えて情報

収集を行うことで、資料の見方も変わるだろう。教師自身が、資料に対するクリティカルシンキング（批判的思考）を行うことが、より深い資料の解釈につながると考える。

③ 「かかわる人々の願いや思い」を追究したいと思う単元構想

本実践の中で社会的事象の見方・考え方を働かせて学習課題の解決を行う児童の姿が見られた。しかし、教科書やインターネットなどの資料を根拠にする児童が多く、その職業に携わる人々の願いや思いに言及する場面が少なかった。それは、学習課題を自分事として捉えることができていなかったからだと考える。社会科の目標には「社会に見られる課題を把握して」とあるが、児童が実生活の中から発見することが望ましい。そのためには、地域教材を取り入れ、その職業に携わる人々とかかわりながら学ぶことができるような単元を構想することが大切であると感じた。教科書やインターネットでの学びにとどまらず、地域教材から学ぶよさを実感させ、生きて働く力を育てられるよう、単元を構想していきたい。

7 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 社会編. 文部科学省. 2017
- ・澤井陽介、中田正弘、加藤寿明、宗實直樹. 『これからの社会科教育はどうあるべきか』. 東洋館出版社. 2023
- ・宗實直樹. 社会科『「個別最適な学び」授業デザイン』. 明治図書. 2023